

# 日本シュタットベルケネットワーク 設立による地域活性化 ～地域エネルギー事業を軸とした地域 活性化の実現～

2017年9月6日 プレスリリース  
日本シュタットベルケネットワーク

# I. 背景: 1. ドイツのシュタットベルケによる電力事業を軸とした地域ソーシャルビジネス

ドイツのシュタットベルケは、エネルギービジネスにより一定の収益を確保し、同収益を活用して地域の抱える課題の解決に貢献する  
**電力事業を軸とした地域ソーシャルビジネス**である。

エネルギービジネス（主に電力小売り）により、一定の収益を確保！

地域の課題解決に収益の一部を活用！  
（公共交通、公共温水プール等の社会的意義は高いが、単独では事業採算のとりにくいサービスなどに投資）



風力



太陽光



バイオマス



水力

収益の  
一部を  
還元



公共交通



公共温水  
プール



**事業全体としては収益を確保して、持続可能なモデル**

# I. 背景:

## 2. シュタットベルケとは・・・

シュタットベルケ(STADTWERKE)とは、

① 自治体が出資した公社である。  
自治体出資の公社であるが、**経営は民間企業として実施**しており、リスクをとりながら、迅速で合理的な決定が可能。

日本名では「都市公社」と訳される。しかしながら、日本で公社というと、第三セクターの赤字事業が連想され、イメージが良くない。そのため、ドイツ名のまま「シュタットベルケ」と呼ぶ

② ドイツのシュタットベルケの**歴史は古く**、19世紀後半から、ガス供給や上下水道、電力事業(発電・配電・小売り)、公共交通サービスなど、時代の変遷とともに**時代のニーズに合わせたサービスを提供**してきた。  
2000年頃からは、電力自由化やFIT導入などの背景<sup>(\*1)</sup>もあり、再生可能エネルギーなどが事業の大きな軸のひとつとなり、安定した収益をあげている。

(\*1) ドイツでは、1998年から電力の完全自由化、2000年から固定価格買取制度(FIT)が導入され、**およそ20年**が経過。日本より先行した**経験・ノウハウが多く蓄積**している。

また、近年、新しいシュタットベルケ立ち上げの動きもある。

③ ドイツにはシュタットベルケが約1,400あり、そのうち、およそ900はエネルギー事業を主事業としている。また、そうした数多くのシュタットベルケ間での内部情報共有や連邦政府への政策提言を行うため、**VKUというシュタットベルケ連盟が設立**されている。

# I. 背景:

## 3. (参考) シュタットベルケ・オスナブリュックの取組み

- 1858年設立の歴史あるシュタットベルケ。  
オスナブリュック市が100%出資。経営は民間企業として実施。
- 電力小売り事業等から安定した収益をあげ、地域の課題となっていた公共交通サービス、公共温水プールなどの赤字事業へ収益の一部を還元し、公共サービスを提供している。
- 一方で、組織全体としては収益を確保し、持続可能。
- 地域雇用にも貢献。900名以上の雇用創出。



表: シュタットベルケ・オスナブリュックの主な提供サービスと規模

	規模	接続世帯数等	その他
供給電力	1,100 GWh/年	37,113	配電網総延長: 2,323km
供給ガス	2,900 GWh/年	30,138	配管総延長: 807km
地域熱供給	56 GWh/年	305	配管総延長: 9km
飲料水	10百万 m <sup>3</sup> /年	32,339	配管総延長: 635km
下水処理	21.5百万 m <sup>3</sup> /年		処理施設数: 3
公共交通	バス: 156台	(利用者数)36,100,000人/年	—
公共プール	プール数: 3	(利用者数)1,250,000人/年	—

# I. 背景:

## 4. 日本版シュタットベルケの先行事例

シュタットベルケの仕組みを、**日本版に発展させた先行事例**がある。  
それは・・・、**日本初**のシュタットベルケ  
**「みやまスマートエネルギー」**(福岡県みやま市)である。



### 電力小売りによる収益確保

### 地域特有の課題の解決する公共サービスを提供

5MWのメガソーラー



一般家庭から  
余剰電力の買取



売電収益  
の一部を  
還元

無償貸出のタブレットから、  
市内店舗の商品を簡単  
に購入、無料お届け



コミュニティスペース  
「さくらテラス」の運営



高圧・低圧  
電力の提供

電気料金  
の支払



域内・周辺地域の企業や家庭

新規顧客  
獲得の  
好循環

在宅のはずの  
ご高齢者が  
不在と判断すると



見守りセンターが  
親族などの  
登録者に連絡

素早い対応が  
可能

雇用創出  
(40名)

高齢者見守り  
サービス



# I. 背景:

## 5. 多くの地方自治体からの高い注目・関心・期待

- ドイツから20年近く遅れ、日本でも電力自由化と固定価格買取制度の導入が進んでいる。そして、多くの地方自治体において、有望な地域資源である再生可能エネルギーを活用した地域内電力小売り事業の検討が始まりつつある。
- そうした背景もあり、シュタットベルケの仕組み～電力事業を軸とした地域ソーシャルビジネス～にも、多くの地方自治体からの注目が集まっている。

第1回世界ご当地エネルギー会議  
(2016年11月3-4日)



日独自治体エネルギー会議  
in みやま (2017年2月6-7日)



日独自治体間連携による脱炭素社会に向けたエネルギー転換WS  
(2017年2月8日)



人口37000のみやま市に、国内外から約300人が参加するほどの高い関心。北は北海道から南は沖縄まで、全国から35自治体の関係者が参加。  
全国の地方自治体からの問い合わせが殺到中

## II. 日本シュタットベルケネットワーク設立による地域活性化

### 1. 日本シュタットベルケネットワークの目的

多くの地方自治体からの高い注目・関心・期待があるが・・・

**各地方自治体が自力で、日本版シュタットベルケを立ち上げていくには、課題が多い！**



- どうやって、電力小売り事業をはじめめるの？
- どのように体制を構築すればいいの？
- 設立するための資金調達は？
- 地域特有の課題に対して、どのようなサービスを提供するの？
- そもそも、事業全体の計画を誰がどう練るの？

事業計画の策定から、実際の事業の立ち上げ、安定運営に至るまでを支援するコンサルティングが求められている。

**日本シュタットベルケ・ネットワークを通じて  
連携する自治体へ支援・コンサルティングサービスを提供し  
地域の活性化に貢献することが可能である！**

## II. 日本シュタットベルケネットワーク設立による地域活性化

### 2. 日本シュタットベルケネットワークの主な活動内容



設立後の日本シュタットベルケネットワークは、主に以下の3つの活動を想定。

#### 活動1 日本版シュタットベルケの設立支援活動

- 講習会、個別コンサルティング等を通じた、電力小売り事業のための事業計画策定支援
- 事業計画に基づく、電力小売りサービス提供体制の構築支援
- 地域特有の課題に対する付加価値サービスを含めた、事業全体計画の策定支援  
⇒将来的には、事業活動(安定運営)支援も想定

#### 活動2 日本版シュタットベルケに関する情報共有・交流活動 (内部向け活動)

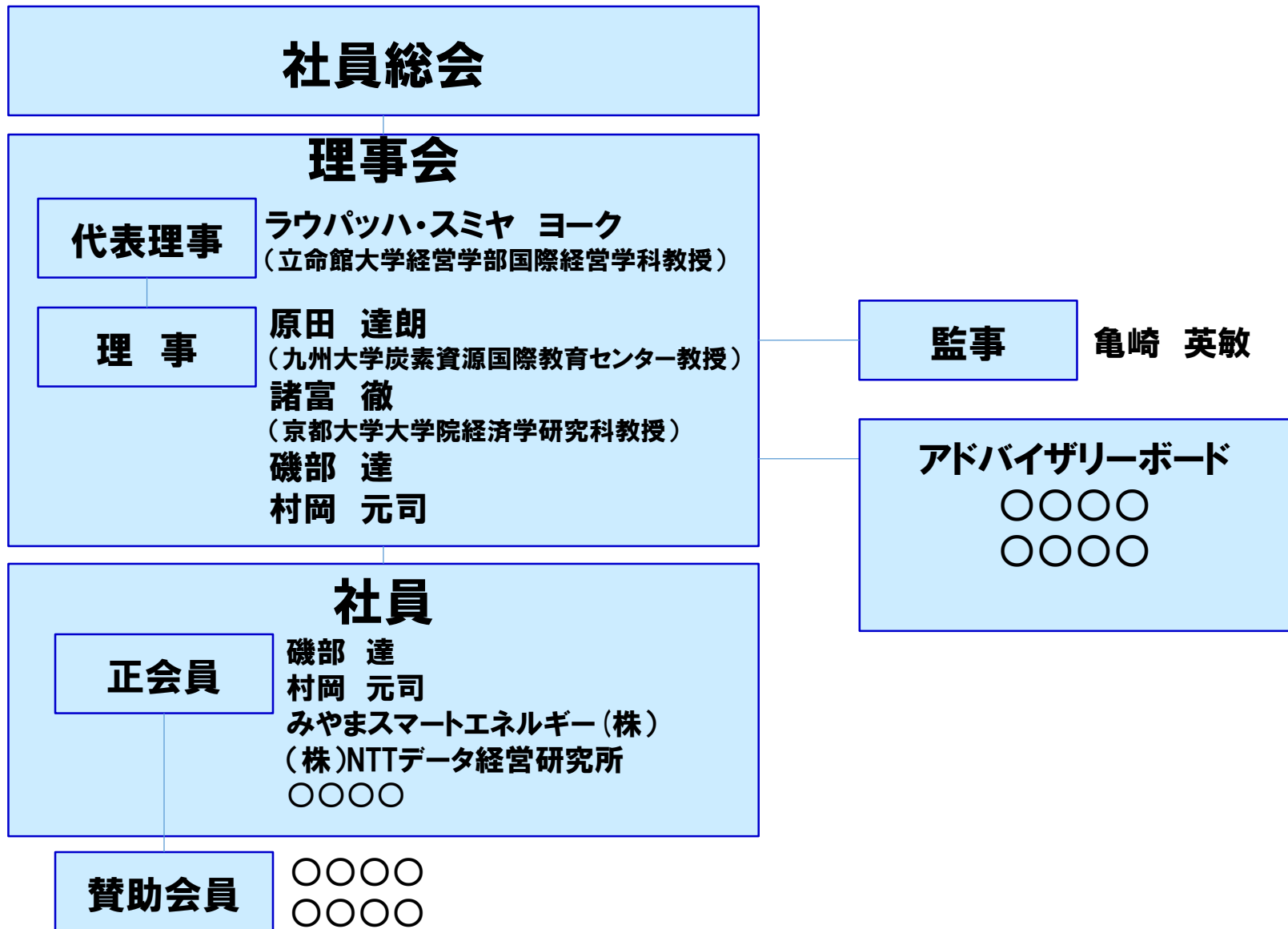
- 講習会、内部勉強会等を通じたシュタットベルケに関する最新情報の共有
  - ドイツにおける最新動向
  - 日本における先行事例情報 等
- シュタットベルケに関心を有する自治体等の相互交流を通じた課題の共有と解決策の共同検討

#### 活動3 日本版シュタットベルケに関する情報発信活動 (外部向け活動)

- 認知度向上に向けたワークショップ、シンポジウム等の開催
- 関連団体との交流・連携の促進
- ドイツ等との国際交流の推進



# Ⅲ. 日本シュタットベルケネットワークの組織体制



# IV. 会費等

種類	入会金	年会費
正会員	50万円	30万円
賛助会員	無料	15万円
賛助会員(小規模企業、ベンチャー等)	無料	10万円
賛助会員(地方自治体)	無料	無料



**JSWNW**

Japan Stadwerke Network  
一般社団法人 日本シュタットベルケネットワーク